

# サントリーホールディングス株式会社

## 2016年12月期中間決算 説明内容

説明者：サントリーホールディングス株式会社  
専務取締役 肥塚眞一郎

平素は弊社、サントリーグループへの多大なご支援を頂き、誠にありがとうございます。  
この場を借りまして、御礼を申し上げます。

### ①当期業績について

2016年度中間期、サントリーグループの業績についてご説明させていただきます。

売上高：1兆2,731億円（前年同期比103.0%）

営業利益：873億円（同114.0%）

親会社株主に帰属する中間純利益：356億円（同229.5%）となりました。

「のれん等償却前利益」では、

営業利益：1,214億円（同110.3%）

親会社株主に帰属する中間純利益：635億円（同144.4%）となりました。

為替換算による減分をカバーし、中間期としては、売上高は12期連続、営業利益は4期連続で過去最高を更新いたしました。

### ②事業の動向について

#### ■展開エリアの経済状況について

当期の日本経済は緩やかな回復基調ではあるものの、個人消費には少し弱さもみられました。一方米国は拡大基調が続き、個人消費も堅調でした。欧州はやや減速、アジアは不確実な状況であったと思われます。その中で、サントリーグループは、飲料・食品事業、酒類事業を柱にして、国内外で活動を展開してまいりました。

#### ■飲料・食品セグメント

飲料・食品セグメントについては、昨日サントリー食品インターナショナル社から報告いたしました通り、「既存事業の成長と収益力強化」「新たなビジネスモデルへの挑戦」「グローバルシナジーの発揮」に取り組み、順調に推移しました。

為替影響はあったものの、特に国内事業が好調で、増収・増益を達成。

売上高：6,745億円（前年同期比109.1%）

営業利益：492億円（同105.4%）となりました。

#### ■酒類セグメント

酒類セグメントについては、為替影響等もあり、売上高4,661億円（前年同期比98.1%）となっていますが、為替中立では1.4%の増収となりました。

また、営業利益は、**395億円**となり、**24.1%**の大幅増となりました。事業の好調に加え、昨年ビームサントリー子会社の会計処理の変更もあり、前年同期比では高めに出ています。実態としては**1割**程度の伸びとなっています。

酒類セグメントの中心であるビームサントリー社も、円換算では減収・増益ですが、為替影響・特殊要因を除いたオーガニックでの比較では、売上は増収であり、各国での既存事業も概ね計画通りに成長いたしました。

主力の「ジムビーム」は世界販売で、一桁台半ばの伸びを実現しているほか、「メーカーズマーク」などのプレミアムバーボンも好調な販売となっています。なお、「ジムビーム ブラック」は、先週発表された世界的な酒類コンペティション **IWSC** においてバーボンの最優秀賞を受賞しました。

国内のスピリッツ事業については、数量ベースで、ウイスキー**6%**増、**RTD**が**14%**増を達成しています。この **RTD** の伸びの中でもハイボール缶は約**3割**増と好調に推移しています。

また、業務用市場においては、「ジムビーム ハイボール」を積極的に拡販し、お取扱店も昨年末から一万店増え、**3万5千店**（6月末）になりました。料飲店様で、「ジムビーム ハイボール」で乾杯されているお客様の姿をお見かけすることもあるかと思えます。一方、ビール類の総市場は前年同期を下回る結果となりました。

そのなかで、当社のビール類は、**1.6%**増を実現し中間期では過去最高となる**16.0%**のシェアを獲得することができました。

「ザ・プレミアム・モルツ」は〈香るエール〉の発売など、新しい市場開拓・需要創造に取り組みました。また「ザ・モルツ」も増分に寄与し、「金麦」も前年を上回るなど、堅調な動きとなりました。

#### ■その他セグメント

中国のビール事業に関して合弁契約を解消したことなどから、売上高は前年同期比**92.4%**の**1,325億円**となりましたが、営業利益**162億円**（同**108.1%**）となりました。

以上のように、飲料・食品事業、酒類事業を中心に各事業が順調に推移していると認識しております。特に国内が成長を牽引、為替換算によるマイナス影響をカバーしました。

### **③グローバルでのシナジー創出**

さて、ビームサントリーとの統合（PMI）についても、シナジーの創出に向け、順調に活動が進んでいます。

販売面では、国内の「ジムビーム」が極めて好調に推移し、当初計画を上方修正いたしました。

ビームサントリーに限らず、生産技術や省エネ技術のノウハウの共有など、生産性向上の取り組みによるコスト削減効果が確実にあがると見込んでいます。

サントリー大学では、企業理念や創業者精神を伝え、共有する活動にも注力しており、当期は半年間で**15カ国**から**70名**ほど、海外の幹部社員が来日して、サントリーについて理解を深めました。

また、通常業務での交流は一層活発になっており、中長期的にはこうした人材交流が、サントリーグループの大きな財産・成果になると考えています。

#### **④財務体質の強化について**

事業の好調に加えて、当期は事業売却などもあり、フリーCFは、636億円（57%増）と大きく増加しております。このうち約500億円を実質借入金の返済に充当しました。計画通りに財務体質の強化が進んでいると認識しております。

#### **⑤当期の特殊要因について**

次に、特別損益に関して少し説明をさせていただきます。

当期は熊本地震の発生により、当社の九州熊本工場が被災いたしました。同工場は震源地に近い上益城郡に位置しており、大きなダメージを受けました。現在、早期復旧に向けて、お取引先様のお力をお借りし懸命の努力をしている最中でございます。当期の決算では、設備や被災在庫の処分などで、101億円の特別損失を計上しております。また、当期に実行した複数の事業譲渡を特別利益に計上しています。スペインのブランド・シェリー事業の譲渡益や、中国ビール事業の合弁解消などにより128億円を計上しており、特別利益が前期に比べて144億円の増となりました。

#### **⑥通期の見通し**

最後に、通期の見通しについてご説明いたします。

今後も世界的に不確実な状態が続くと見込まれますが、サントリーグループはお客様志向を徹底し、さらなる成長と収益力強化を目指して参ります。そのポイントは引き続き3つです。

- ① 高付加価値商品の提案
- ② 生産性向上
- ③ グローバルシナジーの創出

通期業績予想については、当初予想を据え置き、

売上高 2兆7,300億円（前年同期比101.6%）

営業利益 1,880億円（同101.6%）

親会社株主に帰属する当期純利益 500億円（同110.5%）

のれん等償却費を除いた営業利益 2,580億円（同101.2%）を目指します。

以上、簡単ではございますが、2016年中間期決算に関する概要説明をさせていただきました。今後とも、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以 上